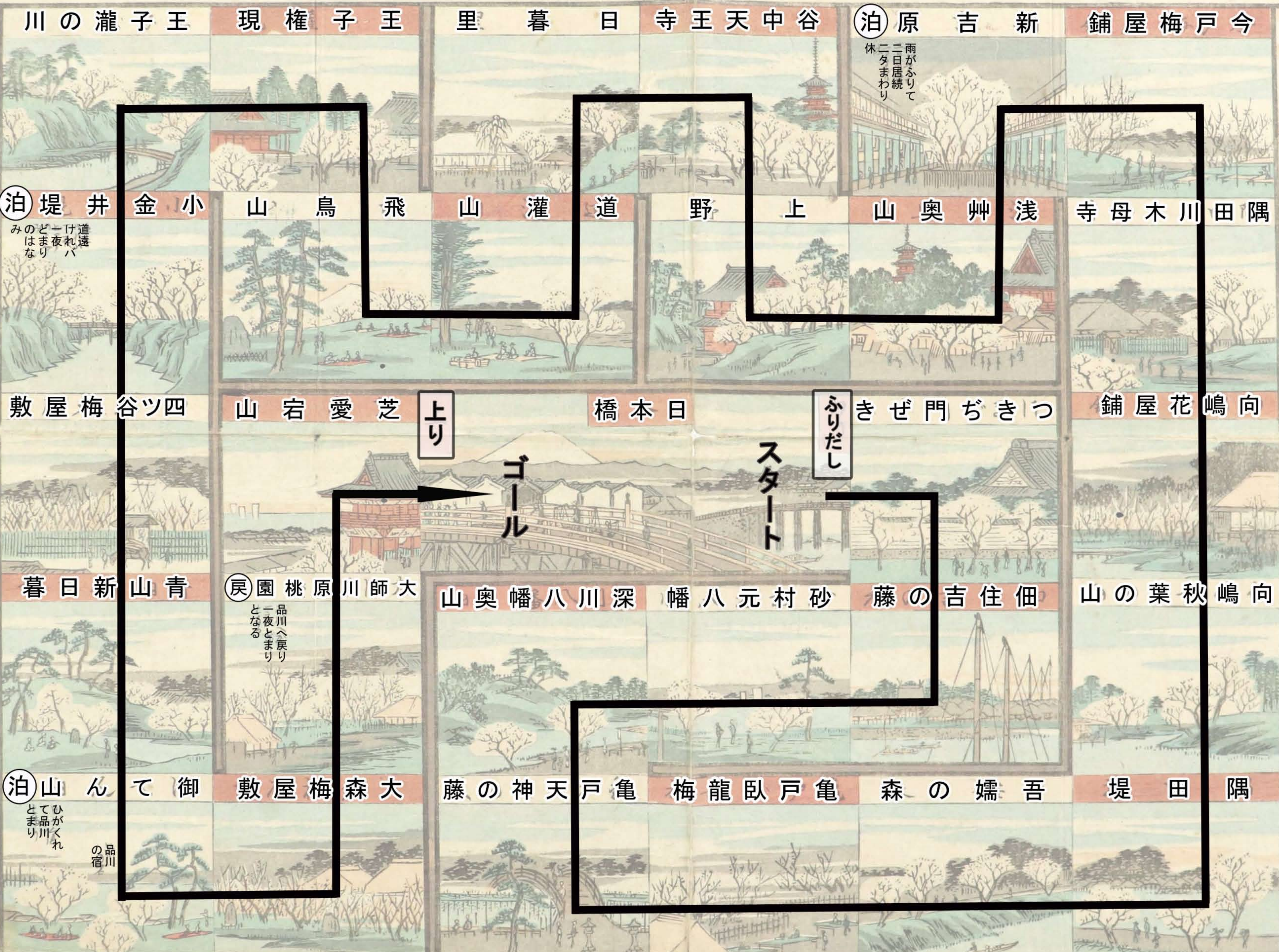


江戸名所花見双六

この双六は上りもふりだしと同所なれば、ほんばしより右のかたへ糸引にならいて順にまわり、左のかたより日本橋へは、もどりて上りなり。

一つあまれハあたごへかへる、二つあまれハ大師河原と順にかそへもどるなり、三つあまれハ休のかつは小書をよく御読被成候。

広重筆
野田屋杳右衛門板



川の瀧子王 現権子王 里暮日寺王天中谷 泊原吉新 鋪屋梅戸今

泊堤井金小 山鳥飛 山灌道 野上 山奥艸 浅寺母木川田隅

敷屋梅谷ツ四 山宕愛芝 上り 橋本日 ぷりだし きぜ門ぢきつ 鋪屋花嶋向

暮日新山青 園桃原川師大 山奥幡八川深 幡八元村砂 藤の吉住佃 山の葉秋嶋向

泊山んて御 敷屋梅森大 藤の神天戸亀 梅龍臥戸亀 森の孀吾 堤田隅

道の遠
けれバ
一夜は
どまな
みはな

雨がふりて
二日居続
休二タまわり

上り

ぷりだし

スタート

ゴール

品川の宿
ひがくれ
て品川
とまり

品川へ戻り
一夜とまり
となる